

社団法人地盤工学会 平成 21 年度 第 10 回総務部会
議 事 録

日 時：平成 22 年 2 月 16 日（火）13:30～15:20	場 所：学会 3 階会議室	
出席者：風間 基樹 部 長	村上 章 副会長	坪田 邦治 理 事
奥野 哲夫 理 事	桑野 玲子 部 員	田中 耕一 部 員
西江 俊作 部 員	松島 亘志 部 員 ×	宮田 喜壽 部 員 (web)
事務局：戸塚 弘	事務局：浅野 有三	

（議事録担当者：西江部員）

（：出席、×：欠席）

議 題：

【報告事項】

1．経理関係報告 〔別紙 - 1〕 p. 1、〔別添資料 - 1〕

坪田理事より 1 月末段階における経理関係の報告があった。

会費収入は予算に対し 96%の達成率。あと残り 2 ヶ月でどこまで予算に近似できるかが課題。

一般会計では、DVD 売上や受託研究などの収入が順調、逆に広告料や講習会の収入が不調。収入は H20 年度対比で 102%と好転、支出は H20 年度対比で 99%。したがって、一般会計での収支差は+3692 万円と順調
刊行会計では、収入・支出とも予算より少ないが、結果的に収支差は+119 万円と若干の利益が出ている。
総収支差は昨年同期の 84%であるが、これから支出も増えてくるため、年度末にはぎりぎりの状況になる
のではないかと予想している。最後の追込みで予算計画にどれだけ近似できるか今後の挽回に期待したい。

2．基金の特定資産化の件 〔別紙 - 2〕 pp. 2-4

事務局（浅野次長）より、2 月 8 日付の文科省指導に対する対応について、説明された。内容については会計士とも相談したものであり、次の 2 点で対応するとの報告があった。

21 年度末における地盤工学振興基金特別会計の次期繰越収支差額を「地盤工学振興基金」という特定資産（固定資産）にする。

22 年度は の特定資産を取崩して流動資産に戻し入れ、活動の資金とする。

3．広報関連、メディア懇談会報告 〔別紙 - 3〕 pp. 5-13

奥野理事（広報委員長）より下記の報告があった。

今年度設置したマスコミ WG で現在、報道機関への情報発信などのあり方について検討している。その一環として、過去 2 年間位を対象にアンケート実施を計画している。このアンケートを実施するにあたって、次回の総務部会（3 月 5 日）に審議事項として提出したい。

事業部、国際部、企画部から学会ホームページ（HP）の改訂要望があった。特に国際部からの要望である HP の英文化は、国際部だけでは担当できない。そのため、平成 22 年度に英文 HP を作成する場合の見積・予算化を検討し、平成 23 年度に作成する方向で進めている。

メールニュースなどの効果を把握するため、Web サイトアクセス解析を積極的に利用していきたい。

学会メーリングリストに関し、北海道支部からの発信が本部からの発信になっている。詳しい状況はわからないので、調査している。また、中国支部と四国支部は本部サーバを利用しているが、メーリングリストの管理は今後、中国支部、四国支部で行なうよう依頼する。

2 月 24 日に予定している第 3 回のメディア懇談会の話題は「宅地造成」に関するものであり、安田先生の他 2 名の計 3 名の講師が講演する。現時点で、マスコミから 4 名が出席との連絡を受けている。

4. その他

- 1) 日本学術振興会賞受賞者の決定通知：当会からの推薦者は受賞されず [別紙 - 4] pp. 14-15
- 2) 日本工学会「科学技術人材育成コンソーシアム」の新設の件 [別紙 - 5] pp. 16-22
戸塚事務局長より、5月15日に予定されているコンソーシアムの発足後に、学会としての対応を決めればよいのではないかとの説明があった。
- 3) 下記2名の訃報を受けた：
 - ・名誉会員、元地盤工学会専務理事 一本英三郎 氏(元 不動建設(株)常務取締役)(21.8.29 逝去)
追悼文依頼者：浅岡 顕 氏(名古屋大学教授、地盤工学会会長)
 - ・功労章受章、元地盤工学会東北支部幹事長 阿部泰夫 氏(東北学院大学名誉教授)(22.2.14 逝去)

【審議事項】

1. 平成21年度決算見込み及び平成22年度最終予算案 [別紙 - 6] pp. 23-24、[別添資料 - 2]
坪田理事、事務局浅野次長より資料に基づき、平成21年度決算見込みと平成22年度最終予算案について説明された。その結果、今回の資料を一部見直し、2月24日の運営連絡会議に提出することで承認された。
21年度の事業活動の収支差は、各部の努力の結果、約1100万円マイナスまで圧縮されてきたが、依然としてマイナス基調の状況である。事業活動収支差額は予算2549万マイナスと較べて約1400万円好転しており、収入も減っているが、支出も減っているため、結果的に対予算上では良くなっている。
別紙-6は文科省の指導に対応したものではないが、最終的には対応したものにしたい。なお、当期収支差額はトータルで9376万円のマイナスにはなっているが、約1100万円を差引いた約8200万円が学会の財産として残っているという理解になることに注意してほしい。
22年度予算では、事業活動の収支差額を371万円までマイナスを圧縮できたが、未だ赤字予算の状態である。どこまでゼロに近づけることができるかが今後の課題。再度見直し、赤字額を出来るだけ削減したい。
なお、運営連絡会議には、コメントを加えたものを提出することを考えている。
広告収入に関しては、予算を1600万円から1440万円に下げている。
2. 平成22年度事業計画まえばん及び本文(本部関係) [別紙 - 7] pp. 25-27
下記の箇所を加筆修正し、原案として2月24日の運営連絡会議に提出することで承認された。
 - ・地盤工学貢献賞「や論文賞(和文部門)」の創設を行う。「」の部分を当面削除
 - ・公共事業「費」50%以上の確保 「」の一文字追加する。
 - ・会計の一本化に関することを加筆する。
 - ・企画部は、「来年度」に展示される 「来年度」を「平成22年度」に修正する。
3. 平成21年度本部事業報告まえばん案作成依頼 [別紙 - 8] pp. 28-33
各部の部長宛に、別紙-8に示した「まえばん」の作成依頼(提出期日3月31日まで)を明日付け(2月17日)で行なうことが承認された。なお、総務部関係の執筆については、下記の分担と通りとする。
サンプルに示されている一段落目及び三段落目(災害連絡関係)は風間部長、二段落目の経理関係は坪田理事、四段落目の広報・IT関係は奥野理事がそれぞれ担当する。
4. 平成21年度支部事業報告・決算報告の提出依頼 [別紙 - 9] pp. 34-37
各支部長宛に別紙-9に示した事業報告案・決算報告案を4月5日までに提出依頼することが承認された。なお、依頼は明日付(2月17日付)とする。
5. 公益法人化の件
 - 1) 各部規程の変更(国際部、会誌部、事業部、調査・研究部、基準部) [別紙 - 10] pp. 38-51

本部各部の規程案を 国際部と事業部は宮田委員， 基準部は桑野部員， 会誌部と調査・研究部は松島部員が担当し，それぞれチェックすることで承認された。

- 2) 各支部規程の変更(北海道、東北、中部支部) [別紙 - 11] pp. 52-66
各支部の規程案は西江部員が担当し，各支部の評議員会が2月に開催されるため，上記3支部の規定案チェックについては明後日(2月18日)までに行なうことで承認された。

6. 地盤工学会誌等の広告契約の件 [別紙 - 12] pp. 67-68
第5条の1,600万円は，目標額であり，あまり意味を持たない。責任額を設定し，その代わり責任額を超えたらマージンを上げるなど，戸塚事務局長が廣業社に一度相談することにした。

7. 第59回理論応用力学講演会の運営委員の推薦依頼 [別紙 - 13] pp. 69-70
現在の運営委員である松島部員の後任について，村上副会長に一任することとした。

8. 平成22年度(第51回)科学技術週間での行事の計画依頼 [別紙 - 14] pp. 71-79
技術週間は4月12日~4月18日であり，時間的余裕もないので，今回は見送る。なお，次々年度(来年4月)のことも考えて，企画部・事業部・広報委員会に周知だけは行なうことで承認された。

9. その他

- 1) 共催、後援、協賛等の依頼 [別紙 - 15] pp. 80-94

「第9回地盤改良シンポジウム」の協賛 主催：日本材料学会 H22.11.18-19

「第4回シンポジウム：統合化地下構造データベースの構築」の共催 主催：防災科学技術研究所 H22.3.8

「公開シンポジウム：自然災害軽減のための学協会の役割と課題」の共催 主催：日本学術会議 H22.3.31

「ジオグリッド補強材壁のライフサイクルコスト評価法とその応用に関する研究コロキウム」の共催

主催：IGS日本支部 H22.4.23

「地盤構造物の限界状態設計法に関するワークショップ」の共催 主催：IGS日本支部 H22.4.23

， は風間部長が事前に承認済み，また ~ についても本日承認された。

- 2) HP、メールニュース等による会員への周知 [別紙 - 16] pp. 95-101

「日本学術会議「国土と環境分科会」ワークショップ-地域再生と国土づくりのコンセプト-」の案内：

平成22年2月19日開催 嘉門雅史氏(日本学術会議会員)よりの依頼

「平成22年度地方発明表彰に係る候補者の推薦」の依頼

応募締切日：平成22年3月31日 発明協会よりの依頼

は風間部長が事前に承認済み，また については，応募はあくまで個人によるものであり，学会からは推薦しないことで承認された。

- 3) 議事録の確認

1/8 総務部会 [別紙 - 17] pp. 102-104

1/22 理事会 [別紙 - 18] pp. 105-112

上記の両議事録について本日確認された。

- 4) 次回の総務部会、理事会等の開催期日の確認

正副会長会議 2/24(水) 13:00~14:00

運営連絡会議 2/24(水) 14:00~15:45

表彰委員会幹事会 2/24(水) 11:00~12:30

公益法人化推進委員会 2/24(水) 15:45~16:45

第3回メディア懇談会 2/24(水) 17:15~18:45

表彰委員会 3/5(金) 11:00~12:30

総務部役員会 3/5(金) 13:00～14:00

総務部会 3/5(金) 14:00～16:00

4月9日(金)の総務部役員会および総務部会の時間変更について

- ・総務部役員会 14:00～15:00
- ・総務部会 15:00～17:00

なお、部会終了後、17:30より懇親会を予定している。

以上、～の各日程について確認された。

5) 総務部からの2/24 運営連絡会議提出議題の確認

審議事項：平成21年度決算見込み及び平成22年度最終予算案、平成22年度事業計画まえばん及び本文(本部関係) 公益法人化の件

報告事項：経理関係報告、基金の特定資産化の件、第3回メディア懇談会開催の件、日本学術振興会賞受賞者の決定通知、日本工学会「科学技術人材育成コンソーシアム」の新設の件、平成21年度本部事業報告まえばん案作成依頼、平成21年度支部事業報告・決算報告の提出依頼、平成22年度(第51回)科学技術週間での行事の計画依頼

上記の議題について確認された。

(以上)